

## 第25回演奏会曲目解説 2005.7.17 長野県県民文化会館中ホール

### ♪ 打楽器アンサンブルのための序曲 (Kendor Music)

小太鼓の細かな刻みにのってまずティンパニが主題を提示します。主題自体は単純なものですが、その後チャイムを含む鍵盤打楽器とロートトムがそれを反復し展開させ、終わり近い部分では全員によって主題が強調されます。打楽器アンサンブルのダイナミックな演奏が楽しめる曲です。1977年出版

### ♪ 木片のための音楽 (Universal Edition)

5人の奏者がひとり一組のクラベスを持って演奏します。クラベスには音程の高いものから低いものまで5種類あり、どの奏者がどの音程を使うかは作曲者が指定しています。奏者はひとつのリズムパターンを繰り返し叩きますが、楽譜上繰り返しの指定回数はかなり大まかで演奏していて気分がよくなったら次のパターンに移ります。そのため演奏時間もその都度違ってきます。1973年出版。

### ♪ ティンパニと打楽器アンサンブルのための協奏曲 (Kendor Music)

ゆったりした序奏から始まり強烈なアチェルランドを経てティンパニのカデンツァに入ります。鍵盤打楽器を伴ったメロディックな部分があり、その後ティンパニの長い独奏になります。ここがティンパニ奏者の腕の見せ所です。後半はいろいろな打楽器が加わってリズムカルにそしてダイナミックに終わります。

### ♪ 打楽器合奏のための「炎のマントラ」(マザーアース)

この作品は太鼓を中心とした2つの曲から成り立っている。第1曲目は4台のティンパニという限定された世界で、音の広がりを表現しようと考えた。第2曲目はこの作品のタイトルともなっている「マントラ」に基づいた作品である。マントラとはサンスクリット語で<真言>を意味している。8分の2拍子で数えられる<不動明王真言>と8分の7拍子で数えられる<弁財天真言>を基これまでもいくつかの作品を書いてきたが、ここでは弁財天真言を用いている。この読経のリズムが常に提示されながら、力強い祈りの世界を形成していく。(作曲者による解説を転用)

### ♪ 日本の歌 <荒城の月～赤とんぼ～まちぼうけ～夏の思い出> (未出版)

日本人ならほとんどが知っていると思われる日本の歌を、マリンバアンサンブルでお届けします。マリンバのやさしい音色をお楽しみください。

編曲者の竹島悟史さんは、東京芸術大学音楽学部器楽科在学中に第13回日本管打楽器コンクール打楽器部門第2位。卒業後はオーケストラやミュージカルを中心にジャンルにとらわれず幅広い分野で活躍しています。現在、NHK交響楽団ティンパニ・打楽器奏者、洗足学園音楽大学非常勤講師、2004年よりサイトウ・キネン・オーケストラメンバー。

### ♪ 3台のマリンバとヴィブラフォンと3群の打楽器のための「舞踏組曲」(Japan Percussion Center)

2001年4月10日作曲。同年6月広島にて開催した「吉岡孝悦とゆかいな太鼓の仲間達」のコンサートで初演。同年12月5日改定。2002年1月、台湾にて朱宗慶打撃楽団の演奏で改定初演。曲は、1. アダージョ トランキーロ、2. プレスト コンモート、3. モデラート ペザンテ、4. アレグロ ヴィヴァーチェの4部構成になっているが、全てアタッカ(続けて)演奏される。オーケストラがピットの演奏され、ダンサーがステージで踊る、という従来のバレエスタイルを、オーケストラの代わりに打楽器アンサンブルがピットの中で演奏され、モダンバレエの振り付けがされることを想定して作曲。

(作曲者の解説)